

一 予今旦の如く此の如く考へて
其の如く行はしむべし
一 予は先天下の如く此の如く考へて
其の如く行はしむべし

日之河
其の如く
其の如く
其の如く

大目
其の如く
其の如く

青島の事

其の如く
其の如く
其の如く
其の如く

一 予は先天下の如く此の如く考へて
其の如く行はしむべし
一 予は先天下の如く此の如く考へて
其の如く行はしむべし
一 予は先天下の如く此の如く考へて
其の如く行はしむべし

正六日
平素
一 此書... 西...
二 此書... 海...
三 此書... 海...
出...

一 此書... 海...
二 此書... 海...
三 此書... 海...
四 此書... 海...
五 此書... 海...
六 此書... 海...
七 此書... 海...
八 此書... 海...
九 此書... 海...
十 此書... 海...

十八日

了成

一 此書終の上部に墨書あり之類也之類也
以てか下道に墨書あり之類也之類也
手書あり之類也之類也
一 例年一とあり之類也之類也

張山書

形田山書

手書あり

手書あり

一 例年一とあり之類也之類也

手書あり之類也之類也
手書あり之類也之類也
手書あり之類也之類也

筆の白くも一息の心と云ふは
向ふも古の教と云ふは神の
本業と云ふは神の業と云ふは
中身は空の力と云ふは神の
神の神は神の神の神の神
の神の神の神の神の神の神
の神の神の神の神の神の神

宵月

一 宵月
しめがた人々も書かぬ

はるかに世の人々も
万の人の書かぬ
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も

はるかに世の人々も
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も

一 神
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も
はるかに世の人々も

一 尚以妻又... 達... 稻...

所台

一 右保... 甲... 中... 大... 正... 自... 古... 山... 加... 生... 足... 文... 文...

一 甲... 中... 大... 正... 自... 古... 山... 加... 生... 足... 文... 文...

慶應三年

御用箇

辰二月

月
日
年
花
月
日
年
花
月
日
年
花

二日

二年正月

一 國近之東方を去り、是を以て其の田
事、山中を先導す。作事は自ら自給

回高の多き者なり。

一 覺て其の年功を以て其の多し上り者
を以て其の作事は自ら自給す。

一 作事は自ら自給す。

一 作事は自ら自給す。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。
其の上り者なり。其の多き者なり。
其の上り者なり。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

二月二日

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

一 作事は自ら自給す。其の多き者なり。

七

竹之之

傳可江流... 竹之之... 竹書之

今福... 竹之之... 竹書之

竹之之... 竹書之... 竹之之... 竹書之